

## 「経営指針に基づいた経営を 次の世代につなぐ」

株式会社五日市塗装工業 取締役会長 晴山 祐一 氏  
代表取締役 南 慎一 氏  
経営企画室 晴山 潤一 氏



# 活き生き企業訪問記

## 「経営指針に基づいた経営を

## 次の世代につなぐ」

株式会社五日市塗装工業

取締役会長 晴山 祐一氏  
 代表取締役 南 慎一氏  
 経営企画室 晴山 潤一氏



晴山 祐一氏

今回の生き生き企業訪問記は盛岡市みたけの株五日市塗装工業を訪問し、取締役会長の晴山祐一氏、代表取締役 南慎一氏、経営企画室の晴山潤一さんにお話をお伺いしました。

**必死で会社を立て直そうとした日々**

取締役会長 晴山 祐一氏  
 高校卒業後、技術系の会社に就職し、平成元年に結婚をきっかけに義父が代表取締役

し、残ってもらいました。このことを実行するのは本当に辛く、決断したからには、やらなければという思いの強さでした。当時は公共工事も多数ありましたので何とか頑張ることができたのだと思います。

社員27名。売上は2億7000万3億円でした。1から10まで全部自分がやり、当然休みもなく仕事に明け暮れる日々。でも、実は数字もよく分からず、儲かっているか儲かっていないかも判断できない状態、かなりの負債もありましたので必死に利息を返していくだけで精一杯でした。でも、それではいけないと思いつつ数字を勉強し、何とか翌年は黒字化することができました。その頃は手段を選ばずにやっています。

**経営指針に基づき大改革を試みる**

このまま、続けていてもこの先どうなるかわからず不安だった矢先、ある経営者の紹介で40歳の時に同友会に入会します。そして例会や先輩

経営者の話を聴き学びながら、もう建設業の下請けや公共工事に頼るのは辞めようと大改革を試みました。社員にも伝え、わかってもらい今までのしがらみを一切絶ち、すべて経営指針に基づいて実行して行くことにしました。しかしそう簡単に行くものではありませんが、でも根気強く諦めずに続けていくことが大事だと思い頑張っていました。また、その頃は同友会の役員にもなっていたので会社と同友会と、さらに忙しい日々でした。

**自分の棚卸をして考えたこと**

2011年震災の年、体の不調に気がつきます。これまでの色々なストレスが溜まりしばらく休んだ方がいいのでは…とドクターストップがかかりました。しかし、自分でも自覚していたのですが、「俺がやらなければ」という気持ちが強くなり我慢した結果、麻痺していた感覚です。本当に怖いことです。とうとう、このまま続けていても自分がダメになると思い休むことを決意します。その間に「自分の

本当にやりたい事は何か」「会社をどうしたいのか」「なぜ生きるのか」など自分の棚卸をしながらじっくり考えました。

仕事から離れる時間があつたことで、自分の気持ちに素直になり自然体で余裕を持つことの大事さに気が付きました。これは社員にも同じことです。給与面では、業界的にも日給月給が当たり前を月給制に提案をして改革しました。最初、納得してもらったが大変でしたが、あたり前の事をあたり前に。社員の生活や将来を考えた上での提案で実践しました。これもすべて社員にも余裕をもってもらいたいという思いからでした。

**迷ったら経営理念に戻り考える**

すべては同友会で言う「生きる・くらしを守る・人間らしく生きる」につながっているのではないかと思います。経営指針に基づき、計画と目標を掲げ、実践する。でも、目標だけを掲げて実践されないならあまり意味のないことだと思います。そして、よく不安になることがあります

が、「なぜ不安になる」のか。それは、未来と過去を考えるからだと思います。よく、思い込みや思いどおりにならないと迷いますが、だからこそ経営理念に立ち返ることが必要だと思うのです。経営者は心身ともに健康で余裕を持ち、社員に任せて組織を作る。そういう会社づくりを現社長、そして次の世代に繋いでもらいたいと思います。

### 苦勞した日々を経て、大役を担って

代表取締役 南 慎一氏  
社長を引き継いだのは、2019年です。最初その話



南 慎一氏

晴山 潤一氏

をいただいた時はお断りしていましたが、社長の体調も芳しくないという事もあり、お引き受けすることになりました。私は営業部門をずっと担当しておりました。当時はすべてが旧体質で車も携帯も個人持ち、営業では飛び込みという形で知識もなく、行き当たりばったりでした。また、同僚の営業社員も定着せずに人の出入りが多く、本当に落ち着かない状態でした。それを少しずつ変えていきたいと思ひ、試行錯誤しながら苦勞もしました。

### 主体性を持って働ける環境をつくる

私が社長になって力を入れているのは社員教育です。社員が主体性をもって活き生き仕事をもらうためにも計画性を持ち、総務、工務、営業とそれぞれ幹部社員の皆さんと打ち合せをし、連携をとっています。最近では、塗装だけでなく、リフォーム工事の要望もありますので、応えていける体制も大事にしています。社員が一人ひとり自分で考え、その結果、色々あつ

ても、そのプロセスを評価します。計画書にはこうしていきたいということがあれば、逆にどうやったらできるかを考え、協力しながら主体的に考えて行動することを大事にしています。また週一の幹部との会議では、会社の数字的な状況、それぞれ現場で起こっていることを共有し、解決するために社員の声はその部門の幹部を通して把握するようにしています。その根底にあるのは「自分で考え、どうしたいのか」ということです。また、現場には若手の女性社員も2名おり、とても楽しく仕事をしているようで、技術的にも丁寧だとお客様からも褒めの言葉もいただいています。営業の女性社員も同じく、「色々なことを相談しやすくしてほしいですね」と好感をもっていたりしています。こういうお客様からのお褒めの言葉や意見が励みになっています。今後も会長からの理念を受け継ぎ、もっと女性が活躍できるように社員一丸となって頑張っていきたいと思ひます。

### 後継者として会社を担っていく

経営企画室 晴山 潤一氏

いずれは将来的に後継していかねければと思ひていましたが、大学を卒業後、自分なりに社会経験を積んでからと思ひ、最初はこの仕事とは全く違う仕事に就職しました。そして2017年9月に五日市塗装工業に入社します。営業を経験しましたが、本当に何もわからず1からのスタートでした。また正直言つて建物や塗装に関してもあまり興味も湧かず、お客様にもどうやって話していいのかもわからず悩んだりした時期もありました。

### 信用を得るためにも勉強した日々

でも、そんなことばかり言つては行かないと一念発起し、建築の仕事には資格も必要だと思ひ、2級建築施工管理技士資格を取得しました。それが自分にとつても仕事をやる上で自信を持つことができ、お客様への信頼にもつながりました。それから3年程経験を積んでいくと、知

識も身につき面白味も感じてきました。現在は経営企画室という部門を担当しています。主な仕事内容としては、各部門の調整や、販促部門、最近社内での危機管理やBCPについて取り組んでいます。新しい事に対しての取り組みはたくさん苦勞はありますが、とても仕事は充実しています。

### お客様に寄り添い提案する塗装会社をめざして

ここ数年、おかげ様でリーダーの方からもご依頼をいただく機会が増えているので、新しい提案としてリフォームを進めています。最初、塗装がきっかけであっても、お客様の話を聴きながら、何に困っているのかなど、生活に寄り添いながら提案していきたいと考えています。また、社員の皆さんには、普段思っている事や考えていることを率直に意見いただき、相談しやすい環境も作っていきたいと考えています。これからも日々の経験を大事にして将来の後継者として頑張っていきたいと思ひます。

# 支部・地区・委員会ほつとライン

## 県北支部

こんな会社にしたと思えたのは、社長の言葉と祖母の姿だった

7月19日(月) 県北支部7月例会が(株)麴屋もとみやの味噌茶屋を会場に開催されました。報告者は、(株)麴屋もとみや



や 専務取締役 本宮啓氏から「恰好つけずにシンプルに」〜見えてきた麴屋としての使命〜をテーマに報告していただきました。

麴屋もとみやは、1930年に創業し地域の食文化を支えてきました。後継者として入社した本宮氏は今年「第15期人を生かす経営・経営指針実践塾」を受講しました。

経営指針実践塾を受講する中で、自社の歴史や地域、社員との関係などをより深く学ぶ一方で、知れば知るほど自分の不甲斐なさを感じ指針づくりに行き詰ってしまいます。

そんな中、社長が作成中の指針書を見るなり一言「恰好つけるな」という言葉が返ってきました。本宮氏はこの言葉に地域に長く愛されている麴屋としての使命を感じます。同時に人に慕われお客様を笑顔にしていた祖母の姿を思い出し「こんな会社にした」と本心から思えるように

なりました。

それからは、社員と積極的に話し合いを重ねてできた10年ビジョンを元に経営指針をつくり上げました。その後、経営指針を実践し多くの課題に直面している中で本宮氏の報告は、参加者の方々にも非常に刺激になった例会になりました。

(文 県北支部 猿子祐太)

## 青年部会

7月27日(火) 同友会事務局3F会議室に於いて青年部東日本大震災学習会が開催されました。この学習会は、9月9日開催される第49回青年経営者全国交流会 from 岐阜で第19分科会の(株)八木澤商店 代表取締役 河野通洋氏を分科会報告者として担当することがきっかけでした。

## 今だからあの時の事を学びたい!

分科会のテーマが「震災から10年」。これまで、河野氏のプレ報告を数回してきましたが、分科会の座長でもある

岩手同友会の猿子部会長(有 猿子園芸代表取締役)から、

「そもそも青年部会の会員は10年前の震災の取組を知らない人が大半で、その頃は同友会にも入会していなかった。この10年を振り返り、東日本大震災と事務局、そして全国の同友会の仲間がどんな動きをしてきたかなどの、自分達も震災当時の事をリアルに知る必要があるのではないか」という提案から開催することになりました。

## この10年間を振り返りじっくりかみしめる

当日は、岩手同友会の事務局長の菊田氏より震災当時の写真(約3万枚所有)を見ながら、当時の様子を聴きました。震災直後の瓦礫の山の陸前高田、希望の光を見出した気仙支部での新入社員合同入社式、全国の同友会からの温かい支援物資、それを避難所に配り懸命に復興に力を出す社員の姿、そして、どこ被災地よりも早く開催した朝市などの取り組み等を丁寧に説明いただきました。

## 同友会って凄い!!言葉にできない感動

参加された青年部メンバーからは「同友会は本当に地域にどれだけの思いを持ち、希望を捨てずに頑張ってきたのかわかった。何か言葉にするのが難しいが、本当に感動した。」「我々若手だけでこの話を聴くのは惜しい気がする。たくさんの人に今一度震災を振り返って聴いてほしい」「第2回目もぜひ開催するべき!」などの感想がありました。その要望に応え次回は9月末の予定を企画しています。



## 遠野釜石地区

7月29日(木) 遠野市まちおこしセンターあすもあ遠野で遠野釜石地区7月例会が行われました。

第15期人を生かす経営・経営指針実践塾を受講し、修了したばかりの中平農園の中平夫妻から、指針の発表とその後の取組みについての報告をしていただきました。

当日はゲストや地元の新会員も交え、また遠方から駆けつけたりオンラインで移動中の車から参加いただいた方も



あり、少人数ながらも熱気溢れる率直な意見交換の場となりました。

中平夫妻は報告の中で、「指針づくりに取り組んだものの、現在は農作業に忙殺される毎日。指針を見直す」と、「やっぱりこれを実現したい」という思いにかられるが時間をとれない。ぜひ皆さんからアドバイスをいただきたい」という今の思いを吐露しました。

参加者からは、「農園の歴史や創業者の思い、今も一緒に農業を営む祖父や祖母の思いを、もっと経営指針の中に汲んだほうがよいのでは」という意見や、「日常の仕事に振り回されるのは計画が無いから。具体的な計画のために、詳細な現状把握が不可欠では」といった解決へ向けての提案、そして「現状把握に本気で取り組めない理由は何だろう」という、さらに掘り下げた問いまで出され、参加者それぞれが自分に置き換えて考えられた、沢山の気づきがあった例会でした。

報告した本人たちはもちろん、経営指針実践塾に関わっ

た同期のメンバーや実行委員も、実践塾を振り返り、さらに一歩を踏み出すためには何が必要かを深く考える良い機会となりました。

(文 遠野釜石地区 桶田陽子)

## ダイバーシティ委員会

8月3日(火) 同友会事務局3F会議室とZoomオンラインでダイバーシティ委員会学習会が開催されました。

今回は「働きやすい職場づくりのためのメンタルヘルス基礎知識」というテーマで岩手産業保健総合支援センター相談員の今松明子氏を講師としてお招きしました。内容を抜粋してご紹介します。

### 心の健康を保つ

最近よくメンタルヘルスが大事と言われていますが、そもそもメンタルヘルスとは「心の健康」を保つこと、健康とは、単に疾病がなく、虚弱でないということだけではなく、身体的にも、精神的にも社会的にも良好な状態であるということ。多くのス

トレスを抱える現代社会ですが、職場においては、経営者や管理者は職場の環境改善を図っていくことです。社員のメンタル不調・不全を発生させないためにも①日常的な変化に気づきやすい立場である②仕事上で困っている人を助けられるのは経営者・上司③経営者・上司の小さな助言が社員や部下のやる気に大きな影響を与えること この3つが重要になります。



り・気づき」「話をきく」「つなげる・協力」をすることが役割になります。こうした配慮が職場環境づくりの第1歩になります。その場合、まず相手の話、言いたいことを徹底的に聴き、そこから何に一番悩んでいるのかを言葉の背景や意図を考えながら聴くと、その人の人間性や価値観などの理解につながります。言葉に伝えるだけでなく、「心」に伝えていく姿勢を持つことも必要です。

### 経営者は安全配慮の義務がある

大事なことは、経営者は社員に対して安全配慮の義務があること。適切な健康管理をしていく事で、仕事の生産性向上にも期待できます。普段からコミュニケーションを大切にし、もし心配や迷いがあればしかるべき専門の事業所に相談しながら解決していくことも大切です。そして、何よりも経営者自身の健康管理も留意しながら、社員を守り、組織を守ることがメンタルヘルズ活動に繋がっていきます。

### 常に声をかけて気づかい

### 「心」に伝える

それには、「声かけ」「気配

## 初めての北東北3県合同リーダー・役員研修会開催

### 「経営者にとって、学んで成長することは必要不可欠」

同友会運動を草創期から牽引されてきた中同協顧問の田山謙堂氏を迎えての初めての青森・秋田・岩手 北東北3

県の合同リーダー・役員研修会が、7月9日にオンラインで開催されました。各県ともに役員層が世代交代をするなかで、中同協創立の背景や労使見解ができた当時の熱き思いや経験に学ぶことで、困難な時代を切り拓くヒントと活力を得て、それぞれの地域、同友会、企業で生かすことを目的に準備されました。今回はコロナ禍の中でWEBを使っ

ての交流が日常になったことで、90歳になられたばかりの田山氏の報告を実現することができました。研修会には同じく中同協顧問の国吉昌晴氏、中同協政策委員長の平田美穂氏にも同席いただき、「危機を乗り越える経営者のリーダーシップ」をテーマに議論を深めました。

### 実践している企業に徹底して学ぶ

田山氏の報告は、冒頭から自主・民主・連帯の精神について、参加者への問いかけから始まりました。「自主民主連帯の精神は、同友会が中小企業運動の歴史のなかで体験し築き上げた経験、まさに運動の理念なんです。同友会は自主的でなければなりません。民主的でなければなりません。そして他の団体と積極的に提携する運動でなければなりません。それが実践できなければ同友会ではないわけです。私は同

友会の運動の中にこうして残された理念が決定的に重要だと思えます。」と1969年の中同協設立時からどんな議論がされてきたかを丁寧に紐解きながら、私たちに語りかけるように話しはじめました。

そしてご自身の企業づくりの経験から「自社には理念がなかったが、同友会のうまくいっている会社に徹底して学んで、やりがい働きのいい会社、将来に渡って未来が見える会社、限りなく挑戦し続けられる会社、という皆が一致できる理念を全力でつくり、これを皆でめざす中で徐々に会社が良くなっていった。経営者にとって学んで成長すること、人格としても豊かになることが必要不可欠である。それがわかって中同協の運動の柱に据えることで、同友会も大きく成長していった。」と長年かけて積み上げた経験から学んだことを、危機突破へのヒントとして提起

いただきました。

### 「発展のために」を手に

最後には事務局と会員の関係について、「経営が危機に陥った時、正直に会員が事務局に助言を求められる日常の関係はできていますか」との問いかけもいただきました。

同友会事務局が会員と共にパートナーであることを根底に、事務局にも会員の声に込められるだけの知識と見識の必要性があること、同時に「労使見解」「経営指針成文化と実践の手引き」についての認識は十分か、またそれらについて会員の経験を集約した知識を理解しているかなど、事務局にとっても大きな問題提起をいただきました。その後3県の役員、事務局がそれぞれグループに分かれ討論を行いました。

参加した役員からの感想には、「報告の中で何度も、このことは『同友会運動の発展のために』の何ページに適切に分析してありますのでこれをお読みいただければよくわ

かります、との言葉に驚いた。運動の理念を大切にすることはこういうことなのだと思えてきた」「事務局の役割について全く理解していなかった。事務局は運動の主体者である」と聞き、今までの考えが違っていたことに気づいた」などが寄せられました。

また事務局員からは「田山氏からの『反論や反発は覚悟の上で率直に正直に伝えられるか』との問いに、自分自信の立ち位置の未熟さを感じた」など、参加した一人ひとりにとって同友会運動の意味を深く考える機会になりました。

## 女性部会

### ここで生きていく覚悟を決めた時に見えてきたこと

8月18日(水) 女性部8月ツキイチ144大学がオンラインで行われました。

今月は、ガーデンカフェ&デリカkimoto代表 木元千恵子氏(秋田同友会)より「家族とのつながりから地域のつながりへ」心な美味しいものを届けたいをテー



マにご報告していただきました。

1973年木元精肉店として祖父が立ち上げた店は、木元氏の母親にバトンが繋がりました。

調理師専門学校を卒業後、仙台の飲食関係に就職した木元氏は、21歳の時に地元に戻り一緒に働き始めます。時代の流れと共に地域や客層も変化していく中で、次第に後継者・事業主そして経営者としての想いが強くなり、自分自身を見つめ直すとともに「何のために、誰のために」を考えるようになりました。そしてここで生きていこうと覚悟を決めたことで、土地や人との関わり合い、先祖がいるから今の自分がいることにも気づかされます。同時に地域に



も目が行くようになりまし  
た。この地にはたくさんの魅  
力があります。それを強みに  
するために発信することの重  
要性を感じ、現在ラジオ出演  
もしています。

「モノ」ではなく「物語」  
を売っているガーデンカフェ  
& デリカkimoto。自社  
だけではなく地域を巻き込み  
ながら、取り組み続けている  
木元の報告でした。

今回は、秋田同友会の会員  
も参加していただき共に学び  
あう時間となりました。

## 季節のちよつと 健康アドバイス



おおしだみマッサー  
ジ指圧院 院長  
大志民 衛氏

プロフィール  
八戸市出身。神奈川  
や東京の訪問マッサー  
ジや指圧院、中国整体  
に勤め経験を積む。  
指圧や運動療法に加  
え、推拿(すいな)と呼  
ばれる中医学の整体観  
にもとづいた伝統療法  
で、不調の元を探し身  
体全体のバランスを整  
え、少しでも症状が改  
善できるよう一人ひと  
りに寄り添う。

私が盛岡に移住したのが6

月初めの事です。これまで  
培ってきた経験と国家資格  
(按摩マッサージ指圧師)を  
生かしたマッサージ指圧院を  
開業するため東京から越して  
きました。岩手の夏は涼しい  
と思っていました。7月中  
頃の連日続いた暑さには、と  
ても驚きました。

が訪れます。

生活状況を詳しくお伺いす  
ると、「ゆつくりする時間が  
とれていない」事が多いよう  
に感じます。そうすると、交  
感神経が優位な状況が長く続  
くため、リラックスする副交  
感神経への切り替えがうまく  
出来ず、不眠に繋がっていき  
ます。しかし、忙しい中で更  
に時間を作って頂くのは不可  
能なので、そこで私がお勧め  
しているのは、入浴の際、湯  
船の時間を少し長めにとつ  
て、ゆつくり浸かる事をお勧  
めしております。お湯の温度  
は38、39℃前後が良いと思  
います。その際好きな香りの入  
浴剤を入れると尚いいです。  
気をつけて頂きたい事は、熱  
いお湯に浸かると、逆に交感  
神経が優位になりリラックス  
効果が得られなくなりますの  
で、お気を付けください。

抵抗がある方もいらつしやる  
と思いますが、辛くならない  
程度に温度を調整し、のんび  
りして心と体の健康を保てる  
ように一度お試しください。

この時期に多いエアコンに  
よる冷えにも改善効果が期待  
できますので、お勧めいたし  
ます。

副交感神経が優位になる状  
況を日常生活の中で作り、一  
日の疲れをその日にリセット  
できるようにするのが、健康  
の近道だと考えております。

皆さんはそろそろ、お身体  
に疲れが出てくる頃ではない  
でしょうか。そんなときに  
ちよつとアドバイス。「暑さ」  
はお身体にとっても大きな負担  
をかけます。そのような状況  
下で、仕事や家庭の用事が忙  
しくストレスが加わると、自  
身が感じている以上のダメー  
ジを受けてしまい、自律神経  
(副交感神経と交感神経)の  
切り替えがうまく行えず、寝  
つきが悪いとか、熟睡できな  
くなる事があります。当院に  
もそのような悩みを持った方

が訪れます。  
生活状況を詳しくお伺いす  
ると、「ゆつくりする時間が  
とれていない」事が多いよう  
に感じます。そうすると、交  
感神経が優位な状況が長く続  
くため、リラックスする副交  
感神経への切り替えがうまく  
出来ず、不眠に繋がっていき  
ます。しかし、忙しい中で更  
に時間を作って頂くのは不可  
能なので、そこで私がお勧め  
しているのは、入浴の際、湯  
船の時間を少し長めにとつ  
て、ゆつくり浸かる事をお勧  
めしております。お湯の温度  
は38、39℃前後が良いと思  
います。その際好きな香りの入  
浴剤を入れると尚いいです。  
気をつけて頂きたい事は、熱  
いお湯に浸かると、逆に交感  
神経が優位になりリラックス  
効果が得られなくなりますの  
で、お気を付けください。

暑い日に湯船に浸かる事に  
抵抗がある方もいらつしやる  
と思いますが、辛くならない  
程度に温度を調整し、のんび  
りして心と体の健康を保てる  
ように一度お試しください。  
この時期に多いエアコンに  
よる冷えにも改善効果が期待  
できますので、お勧めいたし  
ます。  
副交感神経が優位になる状  
況を日常生活の中で作り、一  
日の疲れをその日にリセット  
できるようにするのが、健康  
の近道だと考えております。



# ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール  
1972年長崎県生まれ  
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業  
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

## 宮脇メソッド

世界的に有名な生態学者の宮脇昭先生が、7月半ばに亡くなられました。

宮脇先生が生み出された植樹方式「宮脇メソッド」は、とりわけここ数年、インド、北米、ヨーロッパなど、世界中にその実践が広がっています。5平米からテニスコートく



らしい小さな敷地で、その土地の潜在自然植生のミニ森林「Tiny forest」を造成する手法です。日本の神社やお寺などの側にある鎮守の森がそのモデルです。林業の「均質」な植林とは違い、「多様」な樹種を密植して植樹し、素早い縦方向の成長を促し、多様な樹種の性質による自然淘汰機能によって、除草も間伐も通常、必要とせず、自然の状態に近い森ができていきます。私がドイツで学んだ近自然環境を創出して多様な樹種の不均質な旺盛な天然更新を促し、多様性による自然淘汰を活用する森づくりと通じるものがあります(拙著『多様性、人と森のサステイナブルな関係』)。

私が住む中欧でも、こ

3年くらい、大学の研究室、市民団体、スタートアップ企業など、様々な人や団体が、住宅や工場の空き地や荒地、耕作放棄地などに、宮脇メソッドに基づいた「tiny forest」をつくり始めています。

地球温暖化を抑制していくためには、排出量を削減するだけでは不十分です。アクティブにCO<sub>2</sub>を固定する自然を増やすことが必要です。森林はその有望株です。小さな空き地で、土づくりからはじめて、植樹から2、3年後は維持メンテナンス作業がほとんど必要のない、誰でも簡単にできる宮脇メソッドは、幼稚園や学校、市民グループや企業の環境社会プロジェクトとして注目が集まっています。多くの人々が気軽に参加でき、CO<sub>2</sub>固定に具体的に貢献できます。

宮脇メソッドの限界やデメリットも指摘されていますが、メリットの方が上回っているのが世界中に拡散しているのだと思います。1つひとつは小さいミニ森林。しかし、ドイツで20年前に始まり、エネルギー市場を大きく変えるウネリに発展した市民主体の小さな無数の再生可能エネルギー事業と同じように、「tiny forest」の実践が、世界中で地域分散型で、同時並行で広がれば、大きな効果が生まれるでしょう。植生が多様で豊かな森林は土壌も豊かになり、豊かな土壌のCO<sub>2</sub>固定能力が高いことが、近年の科学研究でわかってきています。

宮脇メソッドのミニ森林のメリットは、温暖化防止効果だけではなく、生物多様性の創出も促し、その場所の微気候もよくし(寒暖の差が少ない、適度な湿度など)、何より参加するたくさんの人々に喜びと生きる力を与えます。

宮脇先生は、1958年から60年にかけてドイツに留学

されて、帰国後に、潜在自然植生による森づくりを提唱されましたが、当初は理解者が少なく、「ドイツかぶれ」と非難を浴びることもあったようです。他のパイオニアと同様に、最初は大変な苦労があったようです。同友会の「中欧かぶれ」のみなさんも、その苦労はおわかりになると思います。

岩手同友会のメンバーの田村満さんから、下記のメッセージをいただきました。「宮脇先生からの提起で、陸前高田にコンクリートの防潮堤ではなく、多様な植林を兼ねた防潮堤を提案されました宮脇先生の講演会も開催し行政も巻き込んで小さなイベントを行いました。徒労に終わってしまったことが残念です」

信念とビジョンを持って偉大な業績を残された宮脇昭先生は、先月、私たちの世界を去られました。氏の想いと、苦勞して蓄積されたノウハウは、様々な壁にぶつかりながらも、その有効性が注目され、実証され、これから益々、世界中で広がっていくでしょう。



## 書籍紹介コーナー

私たちが毎年欧州視察で大変お世話になっている、ドイツ在住の日独森林環境コンサルタント、池田憲昭氏が「多様性」Vielfaltを出

版されました。手にしたときから一気に読み込んでしまうほどで、訪れた時に目にした風景やそのとき聴こえた森のざわめき、青々しい香りが克明に脳裏に映し出されます。今起きている事象の本質とは何かが見えてきます。書評としてご紹介します。

### 【書評】

多様性〜人と森のサステイナブルな関係 池田憲昭(著)

これから起きることさえまったく予見のし得ない状況に右往左往。何処に基盤を置

き、何をもって判断していくのか。

私たちが東日本大震災後、毎年欧州視察に訪れ続け6年が経ちました。そのなかで繰り返し誘(いざな)われたのは、フライブルク郊外のシュヴァルトヴァルトと呼ばれる黒い森でした。鬱蒼(うつそ)うと茂る黒い森に足を踏み入れると、多種多様な木々が足元から芽を出し、まるで私たちに話しかけてくるように迎えて入れてくれます。

そこで繰り返し聴いた音のなかに、独語のWendel(ヴェンデ)という言葉がありました。その原義には、単なる変化ではなく、人間の生き方そのものの根幹からの変



「多様性」vielfalt 池田憲昭 著

オンデマンド(ペーパーバック)  
226P 2,640円  
ご注文は岩手同友会までご連絡ください。  
TEL 019-626-4477

革を促すこと、そして将来の世代に向けた配慮があることを、後に知ることになります。まさに「何のために、なぜ変わらなければならないのか」との私たちがへの問いかけであることに気づきます。

何の心の準備もないまま黒い森を訪れた私たちは、乳母車を押しながら普段着で森に入り、森林浴を気軽に楽しむ姿に衝撃を受けます。馬を連れホースセラピーで森を楽しむ家族とすれ違うのも日常の映像です。そして雪がしんと降り、外気がマイナス10度の中、厚いダウンジャケットを着込んで森を歩き、山頂のレストハウスで暖かいスープでお腹を満たす現地です。そこでの幸せな体験なども重ねました。

持続可能性という言葉は、ドイツの森から生まれました。自分たちの世代のためだけにではなく、次世代のために何をするのか。私たちは経営者同士の学び合いの場でも、社員との共育の場でも、「何のために生きるのか」を自らに問い直すことを、日頃大切にしています。私たちはこの6年、多様で持続可能な森とともに過ごすなかで、幾度も考え、語り合い、気づく機会がありました。そのために何

年も通い続けることになりました。

池田憲昭著「多様性」には、こうした私たちが経験してきた根底にある哲学が、惜しげもなく描かれています。自らの体験と結びつき「そうだったのか」と合点がいく。最近の気候変動や人権への警鐘も、流行を扱うかのような風潮に違和感を感じていました。池田氏はその姿を最後に人間の「尊厳」として、明らかにしています。

岩手県立大学の初代学長であられた西澤潤一氏は、私たちが生まれながらにして持っている心を「素心知困(そしんちこん)」と現しました。生まれたばかりのことを思い起こせるならば、誰しもが人の役に立つ心を持っている(だろう)。今すぐ目の前の困っている人の役に立ちたいけれども、自分には解決できるだけの能力も経験もない。その悔しさを自らの学んでいく原動力にしていこう、というものです。宮沢賢治の理想にも触れるところです。

私たちが黒い森の中で現地の森林官から聴いた30年から50年、更に先の世代に残す将来木(しょうらいぼく)の話も、鹿の食害から立ち上がる新芽を守るために狩猟を続け



ることも、鹿肉の独特の臭みを取り美味しく調理してくれる地元の腕利きのシェフの笑顔も、森から切り出された木材の最高の部位だけを使用したつくられた壮大なパイプオルガンも、人間の内在する尊厳から見ると、すべてが地平線で繋がって見えてきます。

池田憲昭著「多様性」はまさに、現代の誰もが感じている将来への恐れや不安を受け止め、自らの生き方をあらためて確認するための、示唆を与えてくれます。ぜひ一読をお勧めします。

# 素心知困

「東日本大震災の発災時の岩手同友会が何をしてきたのかを知りたい」10年が経過して初めて依頼された話でした。起きていた現状を正確に捉え、取り組む順番を判断し、情報を全方位に発信しながら同時進行で企業と社員を守るためのあらゆる手段を講じていく。今振り返ると、どうしてあのような決断ができたのか。当時はがれきに埋もれた街のなかで、全身全霊で生きる希望を必死で探り、一歩ずつ前に進む日々でした。

青年部会から集った30代の若手経営者は、一言も発さず前のめりになって画面に釘付けになっていました。「当時は東京の学生で、帰ってくるなど家族から言われた。実は被災地の状況は直接見ていない」そんな彼らが最も知りたかったのは、生きるのも精一杯のなかでどうして互いを尊重し中小企業の連携で地域を支える力になったのか。青臭く、泥臭いことかもしれない。けれど経験した言葉は何よりも強く胸に響き、運動を次世代に継承する力になるのだと実感します。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。  
 ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。  
 ■同友会ホームページを  
 ■本紙掲載  
 事業への出入返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

**節電は経費削減につながります!**

オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか?  
 お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。

長寿命    消費電力カット    CO2削減    発熱が少ない

現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい!  
 LEDに入れ替えた場合のコストシミュレーションも可能です。  
 ぜひお気軽にご相談ください。

株式会社 **平金商店** TEL:019-624-2121

**めだか**

訪問看護 / 就労継続支援B型  
 有限会社いわてにつかコミュニティ企画

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで  
 真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検    植物    食用油    資源化    BDFの製造・販売    エネルギー    CO2

**紫波環境株式会社**

岩手県紫波郡紫波町南日語小路口70-1  
 TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686  
<http://shiwakankyo.com/>

し尿・浄化槽汚泥収集運搬

**オリジナルラベル  
 ワインを作成します**

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA 紫波  
 自園自産ワイン紫波 社名ロゴ 包装、のし無料 12本以上 作成料無料  
 岩手県紫波町産ぶどう100%

お申し込み・お問い合わせ  
**Tel. 019-676-5301**  
 自園自産ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク  
 〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

Southern Iwate **DSG** サザン岩手ドライビングスクールグループ  
 Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター  
 RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール  
 HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら  
<http://www.si-dsg.com>  
 /mobile

物を大切にし環境にやさしくありたい 使わない人から使いたい人へ  
 総合リユースショップ **DokiDoki 2nd STREET**

**(株)トータル・リユース**  
 代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**  
 ise yukiyo

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33  
 TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127  
 携帯 090-8780-3296  
 E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

人と自然にやさしい  
 環境を創り  
 地域型企業として  
 貢献します。

岩手日化サービス株式会社  
 〒020-0402 盛岡市黒川 22-56  
 TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

**TUENO**

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は、  
 「適材適包」でお客様をサポート致します。

**「PACKAG ENGINEERING」**

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

**株式会社東北ウエノ**  
 〒021-0893 本社:一関市地主町3-35 TEL0191-21-4531  
 テクニカルセンター:一関市地主町7-15 TEL0191-32-5020

輸送包装便覧.com <https://www.transport-package.com/>

**DOYU**  
 I W A T E  
 同友いわて  
 2021  
 Vol.152

発行 / 2021年9月1日発行  
 岩手県中小企業家同友会  
 広報委員会

〒0200878 岩手県盛岡市着町4-15 カガヤ着町ビル3F  
 TEL019-696-4477 FAX019-626-1644  
 Mail: info@iwate.doyu.jp